
楽しい歴史シリーズ

レイニーシュライン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

楽しい歴史シリーズ

【著者名】

NZマーク

N1750D

【作者名】

レイニーシュライン

【あらすじ】

たのしく歴史が学べない、ある意味イチャラブ（？）歴史コメディもどき。ポロリもあるよ（発言の）。一話完結で原則的に年代順です。

アケレッシフ縄文時代（前書き）

B-L的雰囲気があるといわれればあります。」注意ください。」

アグレッシブ縄文時代

時は縄文時代。

誰がなんといおうと縄文時代。
所は不明。

どことなく縄文なプレイス。

「やあ田中君」

「おや佐藤君。新しい服だね」

「わかるかい田中君。最新の流行ファッショソ、ヨニクロだよ」

「佐藤君、いま縄文時代だから」

「おつとそつだつたね田中君」

「しかもユニークロをファッショソと呼ぶのはどうかな佐藤君」

「田中君、それは冒涜だよ、温厚なおれも怒るぜ」

「佐藤君、だからといってナイフ型石器は危険だよ」

「そうだよ田中君。主にサヌカイトや黒曜石を打ち欠いて作った刃物だからね」

「そうだよ佐藤君。主にサヌカイトや黒曜石を打ち欠いて作った刃物だからね」

「ちなみに田中君、このナイフ型石器は剥片石器といつ種類だ」

「さすが佐藤君、博識だね」

「いまならこの穴あき万能ナイフ型石器に果物ナイフもつけてサンキュッパさ田中君」

「佐藤君、いま縄文時代だから」

「おつとそつだつたね田中君」

「気をつけないとね佐藤君、一度田だし」

「そうだね田中君、ところで土器を作つてみたんだけど、うち見にこないかい?」

「おおそれは縄文的だね佐藤君、是非見に行かせてもらひつみ

「どうだい田中君、おれの家は。指紋照合式の鍵だぜ」

「佐藤君、いま縄文時代だから」

「おつとそつだつたね田中君、ほり、典型的な豎穴式住居さ」

「地面を掘つて柱や梁で骨組みをつくり葦などで屋根を葺いた家だ

ね佐藤君

「地面を掘つて柱や梁で骨組みをつくり葦などで屋根を葺いた家だ

よ田中君

「それではお邪魔させてもうつよ佐藤君

「はいいらつしゃい田中君。こまハーヒー淹れるから

「佐藤君、いま縄文時代だから」

「おつとそつだつたね田中君、じやあ貝とか胡桃しかないけど

「お心遣いだけ受け取るよ佐藤君。ところで土器は?」「.

「ああ、ちょっと待つて田中君、いまメールがきたから

「佐藤君、いま縄文時代だから」

「ああ、そつだつたね田中君、ご覧、徳利と御猪口を作つてみたんだ

だ

「佐藤君、チヨイスが渋いよ

「苦労したのは縄目模様だよ、田中君

「そつこうところは芸が細かいね佐藤君

「主に縄目模様のついた土器が発掘される時代だから縄文時代だし
ね田中君」

「主に縄目模様のついた土器が発掘される時代だから縄文時代だよ
ね佐藤君」

「まあそんなわけでどうだい田中君、一杯

「佐藤君、ぼく未成年だから」

「田中君、いま縄文時代だから」

「ぼくの台詞を取るのは止めてくれないかな佐藤君」

「誤魔化そうとしてもだめだぜ田中君、ささ、ぐいっと

「あ、やめ、や、やめてくれないか佐藤君」

「嫌よ嫌よも好きのうち、だよ田中君」

「だ、だから佐藤君、いま縄文時代だか、あ、んんうつ」

終われ

作品についての説明。

登場人物は田中君と佐藤君。

時代はギャグマンガ日和な縄文時代。 場所は不明。
ノリはあくまでローテンション。

余談ですが私はローテーションと時折間違える。

佐藤君は割と世界観無視するタイプ。

ツッコまれるとあつさり引くのは、肝心なときの押しのためかもしない。

趣味は多分田中君をからかうこととか。

田中君はそんな佐藤君へのツッコミ役。

世界観を再三注意するが、本人の名前も世界観無視であることに気づいていない。

割と天然、鈍感ぽい。 クールな優等生風味だが押しに弱そう。
佐藤君以外に友達がないなさそう。

下手しなくても続く。

アケレッシブ縄文時代（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もいじっています。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
URLは <http://d.hatenanote.jp/rainyshrine/> です。

ポジティブ弥生時代（前書き）

G-L的雰囲気があるといわれればあります。」注意ください。

ポジティブ弥生時代

時は弥生時代。

作中そう言い張る。

所は不明。

作中でも明記せず。

「やあ山田さん、ふあーすとやつぴーー！」

「朝から弾けてるわね鈴木さん」

「それはもう弥生時代だからね山田さん！」

「弥生時代にふあーすとやつぴーはないと思つの鈴木さん」

「それでね山田さん！ それでねそれでね！」

「わかつたから落ち着いて、鈴木さん」

「うん、山田さん！ それで弥生土器を作ったんだけ見て？ 見て？」

「はいはい、あら、素敵なカップね鈴木さん」

「山田さん、いま弥生だよ弥生！ さかずき、つていつんだよつー！」

「あ、そう、それにしても持ちやすいわね、ビールでも飲もうから鈴木さん」

「山田さん、あたしたち未成年だからつー！」

「何言つてるのよ鈴木さん、ビールなんてお酒のうちに入らないわ「密かに不良入つてるよ山田さん！？」

「あなた珍しく純粋な子ね鈴木さん、といひでそれは？」

「あ、これね、これね山田さん、石器つて言つんだよ石器ー！」

「知つているわ、鈴木さん、それも磨製石器ね」

「山田さん、ま、ませーせつきつてなにかな、なにかなつ？」

「打製石器を他の石材で研磨した石器のことよ、鈴木さん」

「…………山田さん物知りだねつ！ 羨ましごつ！」

「私も鈴木さんの無知さは時折羨ましいわね」

「…………むちゅうじぴしーってやるやつかな、山田さん？」

「それにしておいら、主な原料のサヌカイトは採れないはずよね

鈴木さん」

「あ、これね、これね、佐藤君にもらつたんだよ山田さん…」

「…………ふうん…………そ、よかつたわね鈴木さん」

「…………あ、あれえ？　お、怒つてるかな山田さんつ？」

「怒る必要性なんて欠片ほどもないじゃない、変な鈴木さんね」

「そ、そだね山田さんつ！」

「ああ、やうね、この頃は流通が発達していく頃だったわね鈴木さん」

「ま、また難しいこと言つてないかな山田さんつ？」

「簡単よ鈴木さん、石がある所の人が沢山作つて各地に広めてくれてるの」

「じゅよーじきょーあゅーだね、山田さんつ…」

「難しい言葉を知つてゐるのね鈴木さん」

「えへへえ、すごいでしょ山田さんつ…」

「わかつてゐるかどうかは別よね鈴木さん」

「や、山田さんつ？」

「そういえば、他にも中国から鉄器と青銅器が伝わってきたわね鈴木さん」

「あ、そうだねそうだね、あれ便利だよね山田さんつ…」

「そうね鈴木さん。実際は青銅器は祭具として使われ、実用品は鉄器だけど」

「でもそのせいでか、最近争いも多こよね山田さん…」

「そうね鈴木さん。後々教える側の中国まで侵略されるんだから歴史つて皮肉ね」

「ぐ、黒いよ山田さんつ…　まだそーゆー時代じゃないからつ…」

「あらそりだつたわね鈴木さん。確か最近は邪馬台国が台頭してゐるわね

「やうだよ山田さんつ、卑弥呼様がクーを治めてるの？！」

「沢山のクーをまとめて中国に朝貢してたのよ鈴木さん」

「凄い人だよね山田さんつ、尊敬しちゃうつー」

「よほど中国にこびへつらつたのかしらね鈴木さん」

「黒つ！？ 黒いよ山田さんつ！？」

「なんでも占いで政治を行つたらしいわね鈴木さん」

「あ、そうだよそうだよ山田さんつ、どんな占いなんだろねつ？」

「少なくとも朝の天氣予報より当たらないと思つわ鈴木さん」

「だから山田さん、いま弥生、弥生つー」

「占いで国をまとめるなんてよほど口が回つたのね鈴木さん」

「山田さん卑弥呼様に恨みでもあるのつー！？」

「別にないわよ鈴木さん、ただね」

「な、なにかな山田さんつ？」

「私といふときに他の人の話しないでね鈴木さん」

「や、山田さんつ？ ちよ、え、あ、ああああああああ……」

「それでは歸れどきげんよつ、山田さん行くわよ」

終われ

ショートショート一弾。

作品説明。

登場人物は山田さんと鈴木さん。

時代は混迷の弥生時代。場所は不明。

ノリをちょっと変えてみたら変になつた。

やはり妙にテンション高いと崩れるみたいです。

山田さんは優等生タイプと見せかけて隠れ不良。

鈴木さんに対して独占欲丸出し。多分う。

前回の田中君のポジションと思いきや佐藤君ポジション。

鈴木さんは元気はつらつ脳みそバー。

気づいたらこうなつてた可愛そうな人。

山田さんの犬っぽいが多分Mではない。

元気なキャラを畫こうとする必ずバカになるのは私の癖です。

アグレッシブ縄文時代をもとにしたのに、レベルが下がった不思議な作品。

多分このままだと続く。

ポジティブ弥生時代（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もいじれています。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
URLは <http://d.hatenanote.jp/rainyshrine/> です。

ネガティブ古墳時代（前書き）

初の非同性愛的雰囲気ですが、今度は枯れました。ご注意ください。

ネガティブ古墳時代

時は古墳時代。
もはや大多数が認めていない。
所は不明。

要脳内補完。

「あら高橋くん、お久しぶり」「おや渡辺さん、久しぶり」「高橋くん、最近姿を見なかつたけれどどうしていたの?」「ああ、古墳造りに呼ばれてたんだよ渡辺さん」「古墳」というとあの大きなお墓ね高橋くん」「そうだよ渡辺さん、権力の大きさを示しているね」「まるでお山の大将ね、高橋くん」「渡辺さん、一応、時の権力者だから」「そうね高橋くん、でもどのくらい偉いのかしら」「ヤマト王権の端くれとはいえ所詮地方レベルかな渡辺さん」「それは市長ぐらいのものかしら高橋くん」「県知事ぐらいかもしれないね渡辺さん」「でも一般ピーポーに過ぎない私たちには関係ないわね高橋くん」「そうだね渡辺さん、どっちにしろお上には変わりないし」「きっと適当に尻尾振つておけば満足してくれるわね高橋くん」「権力に媚を売るつもりはないけどそれが平和だよね渡辺さん」「ところがそうでもないみたいよ高橋くん」「おやそうなかい渡辺さん」「ええ高橋くん、高句麗と戦争しているみたいな」「ああ、そういうえば今朝の新聞に出ていたね渡辺さん」「毎朝欠かさず新聞を読む未成年つて少ないわよね高橋くん」

「…………」

「渡辺さん、ツツコまないこと、やー」「…………」

「そういえばいまは古墳時代だったわね高橋くん」

「そうだよ渡辺さん、仁徳天皇陵やキトヲ古墳で有名な古墳時代さ
でも高橋くん、読者含め作者すら否定的よね」

「それでも主張することが僕たちの使命だよ渡辺さん」

「本音をどうぞ、高橋くん」

「内容を否定したら僕らの出番も没だからね渡辺さん」

「そうね高橋くん、なにせ私たち没個性だから」「…………」

「キャラクター性がないから設定に頼らなきゃね高橋くん」

「渡辺さん、自虐的になるのは止やつ」

「あら高橋くん、慰めてくれるのね」

「没個性ならクラス内にも馴染めるじやないか渡辺さん」

「それは埋没してんじやないかしら高橋くん」「…………」「…………」

「…………」「…………」

「あなたと友達になれた理由がわかつた気がするわ高橋くん」

「僕もなんとなく理解した気がするよ渡辺さん」

「これは高橋くん、きっと同類相憐れ」「…………」

「渡辺さん、一層虚しくなるから止めよつ」

「そうね高橋くん、といひでこ思つたんだけど」

「なんだい渡辺さん」「…………」

「もうネタがないわね高橋くん」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」「…………」

「…………」
「僕ら頑張つたさ渡辺さん」「そうね頑張つたわ高橋くん」「世の中頑張りだけじゃどうにもならなこともあるつてだけだね
渡辺さん」「そうね、アドリブじゃ私たち会話が進まないものね高橋くん」「でもこれでは落ちないね渡辺さん」「なにかここでひとつ必要ね高橋くん」「なにかあるかな、渡辺さん」「それじゃあ、高橋くん」「なんだい渡辺さん」「氣絶落ちにしましょう高橋くん」「え？ ……つ！？」

終われ

連載気味なショートショート第三弾。

作品概要。

登場人物は渡辺さんと高橋くん。
時代は落日の弥生時代。場所は不明。
ダウナー系のノリにしたら落ちが消えた。

しかし一番書きやすいテンションでした。

渡辺さんは多分クラスの女子と仲悪そつ。
といふかグループづきあいとかがなさそつ。
毎朝新聞を読むダウナー系少女。
密かに毒舌だが自分にも向けられる。
作中クラスに埋没しているとツツ「むが、
むしろ彼女らのよがなタイプは浮いていて目立ちますね（経験談）。

高橋くんもクラスで孤立していそつ。
会話する以前に雰囲気とかで。
毎朝新聞を読むダウナー系少年。
人生を悟ったような諦めたような。

初の男女ペアだが欠片ほどの恋愛要素も見られない。
むしろ同性ペアのほうがなにかしらアクションがあったのは何故?
どちらも枯れていそうなところは私の内面かもしれません。
最後のシーンは「自由に脳内補完してください」。

あつとこれ続きますねえ。

ネガティブ古墳時代（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もいざこいます。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
URLは <http://d.hatenanote.jp/rainyshrine/> です。

アクティブ飛鳥時代（前書き）

痛々しい表現を含みます。“ご注意ください”。

アクティブ飛鳥時代

時は飛鳥時代。

だれが認めるといつのか。
所は不明。

場所に意味はあるのか。

「法隆寺の五重塔が有名ね伊藤、以上
「終わっちゃダメだつてば山本」

「いいじゃない伊藤、誰も期待なんかしてなかつたわ」

「俺たちも含めてそうだが、ダメだつてば山本」

「別にやつたところでギャラが出るわけでもないじゃない、伊藤」

「すぐに金銭に結びつけるのはよくないぞ山本」

「その金銭がすべての価値だというのが資本主義よ伊藤」

「生憎と経済には興味がないんだよ山本」

「興味がなくともこの国はそういう法律なのよ伊藤」

「その法律ができ始めたのがこの時代だな山本」

「あくまでも続ける気ね伊藤」

「まあ飛鳥時代だから仕方ないな山本」

「そうね飛鳥時代だから仕方ないわね伊藤」

「さて大雑把に言つと聖徳太子が生まれた頃だな山本」

「そうね厩戸の皇子の頃からがはじまりね伊藤」

「日本が国として固まり始めた黎明の頃だな山本」

「まあその分動乱の頃と言つてもいいけどね伊藤」

「朝廷内においてかなりの『たご』があつたようだな、山本」

「まあ私は興味無いのだけどね、伊藤」

「百濟復興のため朝鮮に出兵したがボロ負けしたりしたな、山本」

「何それ伊藤、私知らないわよそれ」

「白村江の戦いという奴だよ山本」

「聞いたことがないでもない名前ね伊藤」

「お前の進学がはなはだ心配だよ山本」

「私もこんなことをやつていると心配になるわ伊藤」

「一応これも学習の一環だ山本」

「こんなの全国の中学校生に申し訳ないわ伊藤」

「全國の中学校生はこんなもの見ていないから気にするな山本」

「まあそうね伊藤、ところで」

「なんだ山本、まだネタ切れではないぞ」

「いえ、これ飛鳥時代のよ伊藤」

「おつとやうだつたな、律令制度ができる飛鳥時代だつたな山本」「ええそつだつたのよ、律令制度ができる飛鳥時代だつたの伊藤」「とはいえこのネタもとりあえずでやつてている気がするな山本」

「一応これがロールプレイингだという主張なわ伊藤」

「そんなものはもう今更だと思うがな山本」

「こんなものをやらせる側に言つてほしいわ伊藤」

「俺はいい点をえ貰えれば何も言つことはないんだ、山本」

「あなたのそつ語つ正直なところはまつそすがすがしことをえ思つ

わ伊藤」

「だからとこつて好きでやつているわけではないと付け加えておくぞ山本」

「そつこうと正直に言つちやつあたりが点数とれない理由だと私は思つわ伊藤」

「なんとなくは察していただが性格まで変えようとは思わないな山本」「クラス内に馴染めない方向で個性的よね伊藤は」

「何事にも受け身なお前よりはましだと思つぞ山本」

「流れに身を任せると言つてほしいわ伊藤」

「激流に身を任せ同化するのか山本」

「激流を制するのは清水なわ伊藤」

「お前の場合は淀んで動かないだけの気がするがな山本」

「肯定するわ伊藤」

「そう言つとこりぱつかり積極的だな山本は」「積極的な引っ込み思案なのよ伊藤」

「さつぱりわからないな山本」「

「言つた私もさつぱりだわ伊藤」

「まあそんなことよりもプレゼンの続きだ山本」「あくまで飛鳥時代よ伊藤」

「日本が中国に対等を求めた時代だな山本」

「日本が中国に対等を求めた時代だわ伊藤」「さて俺はまだまだネタがあるんだがどうだ山本」

「私はもういい加減おなかいつぱいだわ伊藤」「ならこの位でいいだろつか山本」

「別にいいと思うわ伊藤」

「ならあとはオチだけだな山本」

「そうね、後はオチだけね伊藤」

「高橋たちがあまりにも色気なかつたからいちやつづくか山本」「

「あなたの口からいちやつづくといつ言葉を聞くとは思わなかつたわ

伊藤」「

「そう言つ、ギャップは印象が強いらしいからな、山本」「

「じゃあ私もそう言つのをやってプレゼンをしめるべきかしら伊藤」「

「そうだな、やつてみて損はないと思うぞ山本」「

きやはつ

伊藤くん、これで終わりだぴょん」「

「……………山本」「

「……………わかるてるわ伊藤」「

「……………以上で……………終わりでいいな、山本」「

ええ

終わりましょう、伊藤」「

終われ

連載しちゃったショートショート四弾。

作品説明。

登場人物は山本と伊藤。

時代は激動の弥生時代なのか。場所は不明なのか。
気づいたら他より歴史言及が多くなっていました。
相変わらず歴史を学べませんが。

山本は激流に身を任せ苔生していく川底の石とか。
生きながら腐っていくようなやる気のない女子D。
ダウナーというより面倒くさがり屋。
積極的にひきこもる。

女子が表面上仲良くなっているのが理解できない女子。
ある意味私はこういうタイプです。

伊藤はなんだらう。

積極的というか、やるべきことはやるタイプ。

悪いやつではないがクラスに馴染みにくいタイプ。
話しかければ答えるが、自分からはアクション起こさないような
グループ活動では周りが遊んでいる間に仕上げちゃうみたいな。

多分山本意外に友達いない。

なんでこう、友達いなさそな奴しかいないんだろうこのシリーズ。

このまま続けどこかへ。

アクティブ飛鳥時代（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もいじっています。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
URLは <http://d.hatenanote.jp/rainyshrine/> です。

センシティフ奈良時代（前書き）

内容的にもシリーズ的にも行き先を見失っています。ご注意ください。

センシティブ奈良時代

時は奈良時代。

もうひとつでもいいや。

所は不明。

もうひとつでもいいや。

「はい、では始めてください中村くん」

「は、はい、小林先生、ぼくの班は奈良時代です」

「この時代はおよそ80年ほど続きますね中村くん」

「はい小林先生、えっと、ななひやく、ななひやく、」

「広義では710年から794年までですね中村くん」

「ひいつ、『』、ごめんなさい小林先生……っ！」

「いいですから中村くん、年号の覚え方やったでしょ」

「あ、えと、えと、なんときれいな平城京、です！」

「そうですね、元明天皇が平城京に遷都したのが始まりですね中村くん」

「は、はい！ へ、平城京が奈良に置かれたので奈良時代です小林先生！」

「そうですね中村くん、ちなみに平城京は京都と同じ碁盤目状でした」

「え、えと、小林先生、平城京は、色んな国の人々が来てました、よね？」

「そうですね中村くん、平城京は当時としてはかなり国際的な都市でした」

「中国や朝鮮、インドの人々も来てた、んですね小林先生」

「ええ中村くん、シルクロードの終着点ですから人が集まつたようです」

「でも川がないので水がなかつたりして大変だった、んですよ

ね小林先生

「そうですね中村くん、でも私じゃなくて皆に話して貰いたいんだから」

「ひいこ、ご、ごめんなさい小林先生……っ！」

「お、おー井村先生!! えと、え、あ、ああつらひ、

「落ち着いてください田村くん、ゆっくりでいいですから」

!

「落書きして中村くん、大丈夫ですか？」

「……………ニ、わあおあおああん！」

落ち着いて 中村くわん 保藤くわん カンヌリめでカ

۱۱۷

五分後

「失礼しました。中村くん、続けてください」
「は、はい小林先生！」この時代は、あの、ほ、法律がつ
「名前、名前言つてください中村くん」
「ひやいつ！た、大宝律令を改善していつて、ました、よね……」

「そうですね中村くん、この頃は戸籍なども無い税のようなものもありました」

「え、あ、えと、租・庸・調ですね小林先生!」「はい、よくできました中村くん

「はいっ、小林先生！」

「でも中村くん、私じゃなくて監にね、言つてください」

「ひいっ、ご、ごめんなさい小林先生…生まれてきてごめんなさい

「つー」

「いいですから中村くん、続けてください」

「は、はい中村先生！ えと、うう、あう、あ、あぐう、」

「落ち着いてください中村くん、ゆっくりでいいですから」

「は、はひつ！ え、ああ、うう、ふう、うう、うへ……つー」

「落ち着いて中村くん、大丈夫ですから」

「うう……うわあああああんつー！」

「……落ち着いてください中村くん。山田さん、カメラ止めてカメ

「フ」

（十分後）

「失礼しました。中村くん、続けてください」

「う、ぐす、小林先生、えと、あの、」

「中村くん、ゆっくりでいいですから」

「え、えと、あの、小林先生、ちょっとノート見ていいですか？」

「中村くん、いま奈良時代ですから」

「え、え、えう、小林先生え……」

「冗談です中村くん」

「あ、そ、そうですよね小林先生」

「中村くんにロールプレイングを期待するほど先生鬼じゃありません

ん

「え、あの、小林先生？」

「中村くん、続けてください。ノート見てもいいですか？」

「あ、はい、小林先生。えと、この頃は天平文化が有名です」

「簡単に言つてしまえば中国の影響を受けた貴族・仏教文化ですね

中村くん」

「はい、えと、お寺や仏像がたくさん作られてたんですね……よね、小

「林先生」

「有名な建築物や仏像は全部この時代だと思つてもいいんじゃないですかね中村くん」

「え、あ、えと、多分、そうです、小林先生」

「もうぶっちゃけ大仏だけでいいですよ覚えるの、そう思いません中村くん」

「え、あ、えと、その、小林先生がいっなら、その」

「まあそういうわけでここいら辺で終わりましょう中村くん」

「え、あ、はい、そうしましょう、小林先生」

「正直先生も疲れちゃいましたし、ねえ中村くん」

「ひいつ、『』、『めんなさい小林先生…隣りで息して』『めんなさいつ…』

「違いますから中村くん、落ち着いてください」

「ひやいつ！『』、『めんばばいつ、ひつ、ぐふつ…』…つ…」

「落ち着いて中村くん、大丈夫ですから」

「つう…うわああああああんつ…』

「……勘弁してください中村くん。佐藤くん、カメラ止めて、笑つてないで」

「びええええええええええええええんつ…』

「佐藤くん、カメラ止めて。笑つてないで、ちょ、佐藤カメラ止めろ」

（――十分後――）

「お疲れさまでした中村くん」
「うつ、ぐす……はい、小林先生」
「次の班の子は準備しておいてください。あと佐藤君は後で職員室に」

「小林先生え……」めんないい……

「…………もうやだこのクラス……」

「…………もうやだこのクラス……」

終われ

連載しているらじじーショートショート第五弾。

作品説明。

登場人物は中村くんと小林先生（と伊藤くんと佐藤くん）。
時代は黎明の奈良時代らしい。場所は不明らしい。
もはや体裁さえ保てなくなつたこのシリーズ。

皆さん、「存じでしようがこのシリーズで歴史は学べません。

中村くんは臆病極まりないもやしつ子。

怒られてなくとも身がすぐむタイプ。

虐められてるわけじゃないのに心は傷だらけ。
ついでに周りのハートも傷だらけ。

メンタルが弱いために生きるのが不器用な子。

探せば割にいる気はする。

奥手で人付き合いが苦手で一人組を作れず余つて先生とペア。
おぎやーんと先生に泣きつく今日この頃。

小林先生は事なき主義。

できればスマーズに物事をすすめたい。

面倒事を早く終わらせたがる。

割と投げやりなで大抵のものはどうでもいいタイプ。

それが平等扱いに見えるのか臆病な小動物に懐かれた今日この頃。

そもそも友達を増やしたくない人種なのに。

面倒くさがりだけど義務は義務できつちりこなさないと気持ちが悪いのだとか。

生徒はみんな半分人間になりかけの動物だと思つてる。

なんかいつ…… 方向性を間違えた気がするにやー。

続けば続くと思うし、続かなければそれもやぶさかではない。

センシティブ奈良時代（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もいじっています。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
URLは <http://d.hatenanote.jp/rainyshrine/> です。

アトラクティブ平安時代

時は平安時代らしきぜアーチキ。

そこそとじよひじく。

所は不明らしきぜアーチキ。

そこそとじよひじく。

「家帰つてまで勉強するやつの気が知れねえよ吉田」

「難しく考えるからいけねえんだよ斎藤」

「どう考へても勉強は勉強だろ吉田」

「勉強つて考えるんじゃねえ、斎藤。学習だ学習」

「言い方変えただけじゃねえか吉田、俺は騙されねえぞ」

「最近の政治を見るにお前の態度は素晴らしいけどな斎藤、違つんだよ」といはず」

「なにが違うんだよ吉田」

「勉強は強いてめるから辛いんだよ。学んで歸つと考へんだよ斎藤」

「藤」

「お前なんか難しい」と言つてねえか吉田」

「あれだよお前、勉強は面倒くせえつて思つてるだろ斎藤」

「当たり前えだよ吉田」

「嫌なもん無理にやるうとすつから面倒くせえんだよ斎藤」

「さつきからお前、俺のことおちよくなつてんのか吉田」

「違えよ斎藤、楽しくやりやあ勉強もいのもんだけ斎藤」

「できねえから言つてんだろ吉田」

「じゃあ教えてやつからよ、教科書出してみろよ斎藤」

「ねえよ吉田、学校に置いてきてんに決まつてんだろ」

「じゃあ俺のでいいけどよ、俺らがやる平安時代見てみりや斎藤」

「ぱつと見、なにがなんだかわからんねえな吉田」

「拒否反応起」してんじやねえよ斎藤、大体どんな時代だこれ
「知らねえよ吉田。平和で安全つて書くんだからよお、そりなんじ
やねえの」

「違えんだよ斎藤」

「マジかよ吉田」

「お前、あのサムライ知つてんだろ斎藤」

「当たり前だろ馬鹿にしてんのか吉田、俺大河ドラマとかマジ好き
だから」

「お前大河ドラマ見てんのに歴史わかんねえのかよ斎藤」

「お前、それはあれだろ、わかんねーとこは聞き流してんだよ吉田」

「俺なんか解説まできつちり見てるぜ斎藤」

「お前すげーな吉田」

「お前あれだよ、続きもんの漫画で一巻だけ抜けてたら手に入るま
で読まねーだろ斎藤」

「読まねーけどよ、なんか違わねえか吉田」

「同じだよ、きつちり最初から最後まで見ねえとすっきりしねえだ
ろ斎藤」

「あの御長寿探偵漫画は2、3巻飛ばしても違和感ねーけどな吉田」
「推理編と回答編、別の組合せても何となく納得するよな斎藤」
「もはやギャグ漫画の勢いだからな吉田」

「違えよ斎藤」

「いやあれはギャグ漫画だろ吉田、殺人の動機とか…」

「それは同意だが話すれどんだろ斎藤」

「おう、そうだな吉田、あの、あれだろ、天地人の話だろ」

「そこから始めたら無限ループだぜ斎藤」

「あー……あれか、新撰組か吉田」

「時代が違えけど近いな斎藤、武士だ武士」

「おっ、思い出したぜ吉田」

「あれ生まれたのこの時代だから、斎藤」

「マジかよ吉田」

「武士つーんだけじゃ、戦つの専門の家みて のができんだよ斎藤」

「藤」

「全然平和でもねーし安全でもね な吉田」

「あとお前、あれだよ、源氏と平氏って知ってるだろ斎藤」

「それはお前、あれだよあの……弁慶のやつだろ吉田」

「正確にはそいつのボスが源氏だけどよ斎藤、それもこの時代」

「マジかよ吉田」

「牛若丸は若い頃の名前で、源義経つーやつだよ斎藤」

「あー、聞いたことあるぜ吉田」

「ちなみにこいつ手柄立てたのに兄貴に追放されてんだよ、斎藤」

「ひつでーなその兄貴、スキヤンダル物じやねーか吉田」

「まあ平安時代だから斎藤」

「全然平和でもねーし安全でもね な吉田」

「名前と実際が違うのはよくある話だろ斎藤」

「いや、でもそこはぴったり合つたり合つてねえと困るだろ吉田」

「いいんだよ斎藤、トップが悪い例を実践してんだからよ」

「政治ネタはやめるよ吉田、馬鹿にされてるみてえだ」

「いや斎藤、俺もよくわかんねーんだけどよ実は」

「あれだな、俺らニユースに踊らされてんな斎藤」

「なんとかしねーといけねーんだらうけどな吉田」

「実際問題何したらいいかわかんねーもんな斎藤」

「危機意識が足りねーつつわざてもなあ吉田」

「そういう風に育てた側が文句言つてるのが困るな斎藤」

「ところで吉田、あれはどうしたんだよ、あの、なんつったつけ」

「お前よ、ツーカーじゃねえんだから通じるかよ斎藤」

「あれだよあの、弁慶の兄貴だよ吉田」

「弁慶じゃねえよ斎藤、義経だよ」

「あー、そいつそいつ。その義経の兄貴はどうなったんだよ吉田」

「実は俺も知らねーんだよ斎藤」

「マジかよ吉田、知らねえのに解説してたとかパネエ」

「全然平和でもねーし安全でもね な吉田」

「あとお前、あれだよ、源氏と平氏って知ってるだろ斎藤」

「それはお前、あれだよあの……弁慶のやつだろ吉田」

「正確にはそいつのボスが源氏だけどよ斎藤、それもこの時代」

「マジかよ吉田」

「俺は知らねーけど教科書書いてあんだろ、読もうぜ斎藤」

「そうだな、なんか気になつてこのままじゃ夜も眠れねーぜ吉田」

「いりしてみつとよ、結構面白いだろ斎藤」

「マジだな吉田、いまならレポート書けそうだぜ」

「なんのだよ斎藤」

「あの、あれだよ……弁慶」

終われ

べ、別に大晦日記念のなんかなんじやないんだからね。時間があつたからたまたまよ、たまたま！

作品についての説明。

登場人物は吉田と斎藤。

時代は暇を持て余した若者のだべりな平安時代かも。場所は不明かもね。

もはやプレゼントの形態すらしていない。

何かに興味を持つことが楽しい勉強の第一歩です。

吉田は意外とそこそこ成績は取るタイプ。

勉強の口は面白いと思つてやること。

タバコも酒もやらないけれどかといつて優等生でもない。

特にやることもないダウナーな日々をゲーセン行つたりだべつたりして過ごすとか。

結構きつちりした性格で、CDは聞き終えたらきつとケースに収めて棚に戻す。

斎藤は口は悪いが素直なバカ。

余り頭も気遣いも良くないが大抵の話題に食いつくので会話に困らない。

割とルーズでだらだら毎日を生きているが、人付き合いはいいとか。授業中寝てるので成績が悪いとか。

終わりの見えない連載漫画を何ループでも読める気長な性格。

後半になるにつれてキャラクターが見え始めた気がしました。

あらゆる事態に注意しながら続けていくことを考慮したい。

アトラクティブ平安時代（後書き）

小説系ブログ「スナーク狩りにも雨は降る。」もいじれています。
興味のある方は是非そちらもご覧ください。
URLは <http://d.hatenanote.jp/rainyshrine/> です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1750d/>

楽しい歴史シリーズ

2010年10月17日03時20分発行